

趣旨：

2008年9月26日、大牟田・荒尾の旧三池炭鉱宮原坑跡および万田坑跡は、「九州・山口の近代化産業遺産群」の一部としてユネスコ世界文化遺産(世界遺産)の暫定リスト(国内一覧表)に掲載されることが決まりました。

今回、宮原坑跡と万田坑跡が世界遺産登録の候補となったわけですが、その他のものは消えていってしまっているのでしょうか？「炭都」の風景は、坑口跡だけではないはず。現在も稼動する工場や「炭鉱電車」、かつて炭鉱電車が走った廃線跡、それから今年100周年を迎えた三池港に人工島、既に記憶の中になってしまった社宅生活...そうしたものの全体が「炭都」の風景であり特徴だと思います。

それらを地域の宝として保存し活用することによってこそ、大牟田・荒尾の地域ならではの魅力となると我々は確信しています。こうした遺産を守るのは行政のみでも、所有企業のみでも、またNPOのみでもなく、その遺産がある所の地域住民が「これは大切なんだ、ぜひとも活用しながら伝えよう！」と思う気持ちや姿勢なのです。

今回は、若い学生が新しい視点で「炭都」をとらえ、その魅力を伝えようと写真展を開催し、世界的に有名な遺産まちづくりの先生、大牟田・荒尾を丹念に取材されて映画製作したジャーナリスト、実際に福岡・長崎・佐賀で炭鉱遺産を活かしたまちづくりを実践しているNPOからの提案をもらいながら、行政・民間ともに経済的に厳しい状況に直面する中での「炭都」の風景の伝え方について地域住民のみなさんと討論する場となればと思っています。

主な出演者のプロフィール:(古庄信一郎氏/三原宏樹氏/波多江萌氏については紙面都合上割愛させていただきました)

・西村 幸夫 (にしむら ゆきお) 氏

東京大学大学院教授：まちづくりの専門家。世界遺産記念物会議 (ICOMOS) 前副会長。九州近代化産業遺産研究委員会委員長。全国各地のまちづくりアドバイザーを歴任。著書多数で最新著書に『西村幸夫 風景論ノート』(鹿島出版会 2008年)。

西村幸夫氏



・熊谷 博子 (くまがい ひろこ) 氏

映像ジャーナリスト・映画「三池 終わらない炭鉱(やま)の物語」を監督。「三池 終わらない炭鉱(やま)の物語」では、元炭鉱マンや大牟田・荒尾市民ほか三池炭鉱に関わった様々な人々を対象に丹念な証言取材を敢行。

熊谷博子氏



・坂本 道徳 (さかもと みちのり) 氏

NPO法人軍艦島を世界遺産にする会理事長。九州伝承遺産ネットワーク会長。「軍艦島」として知られる端島の元島民で、いち早くその価値に着目。「軍艦島を世界遺産に！」を「船長」として現実にしつつある。



坂本道徳氏(写真中央)

・野田 かつひこ (のだ かつひこ) 氏

久留米市三瀬町在住の地域を中心に活動するシンガーソングライター。特に福岡西方沖地震で被災した玄海島の応援ソング「僕のふるさと玄界島」リリースや志免において「命」をテーマとしたコンサート開催で知られる。大牟田を題材にした「有明ユンヌ」という曲も作詞作曲。

野田かつひこ氏



大牟田・荒尾 炭鉱のまちファンクラブの概要

三池炭鉱関連の産業遺産の保存・活用を通じたまちづくりに取り組んでいる市民団体です。「まち、まるごと博物館」を合言葉に、炭鉱のまちの地域資源を活かした、まちを元気にする様々な活動の企画、提案、実施を通じ20世紀の日本を支えた「炭鉱のまちの風景・心象を次世代へ継承する」ことを目指して2001年10月に結成、2003年4月よりNPO法人として運営しています。元炭鉱マン、主婦、会社員、教員、公務員、自営業者等様々なメンバーで活動しています。

主な活動として、 Tanto Tanto ウォーク、宮原坑定期公開(大牟田市教委と協働)、万田坑市民まつり催行、炭都のガイドツアー、ガイド養成・勉強会、万田炭鉱館の運営と万田坑市民ガイド(荒尾市指定管理者として万田坑ファン倶楽部と協働)、炭鉱関連施設の景観維持・保存(草刈り・清掃活動など)、大牟田市石炭産業科学館の企画業務受託、オリジナル弁当「炭都物語」などのグッズ開発・販売、九州伝承遺産ネットワーク加盟による連携、『ファンクラブ通信』(会報紙)発行・ホームページの運営、月例定例会などを実施しています。興味のある方は下記へお気軽に！



目指すは、まちまるごと博物館！

NPO法人 大牟田・荒尾 炭鉱のまちファンクラブ

〒836-0841 福岡県大牟田市築町2-8(大牟田カメラ3F) 理事長 中野 浩志

TEL: 0944-52-7026 FAX: 0944-31-5633 E-mail: info-c@omuta-arao.net

ホームページ <http://www.omuta-arao.net/>